

NTT ラーニングシステムズ株式会社
おまかせサーバサービス

プレミアムプラン用 Web サービスご利用マニュアル

この度は弊社サービスをご利用頂き、誠にありがとうございます。このマニュアルには、プレミアムプラン用 Web サービスのご利用方法や注意事項を記載しております。また共用 SSL サービス、MySQL サービスの仕様につきましても記載しておりますので、あわせてご利用下さい。

サービスについてご不明な点がございましたら、おまかせサーバサービスセンタまで、お気軽にお問い合わせ下さい。

おまかせサーバサービスセンタお問い合わせ一覧	
Web サイト (会員専用ページ)	http://member.omakase.jp/
一般的なお問い合わせ	info@omakase.jp
技術的なお問い合わせ	tech@omakase.jp
登録に関するお問い合わせ	reg@omakase.jp
サービスセンタ 電話番号	03-5304-8163
サービスセンタ FAX 番号	03-5304-8162
書類送付先	〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-33-4 5F NTT ラーニングシステムズ株式会社 おまかせサーバサービスセンタ宛

プレミアムプラン用 Web サービスマニュアル目次

■ サーバの仕様.....	3
◆ サーバ OS について.....	3
◆ Web アクセス方法.....	3
✦ Web サーバの URL 表記について	3
✦ 共用 SSL サービス.....	3
◆ ファイル名の指定がないアクセス	4
◆ サーバエラーの種類.....	5
◆ 利用可能なディスク容量.....	5
■ FTP サービスの仕様.....	6
◆ FTP ログイン情報.....	6
◆ ディレクトリ構成.....	7
◆ Web アクセスログ.....	7
◆ FTP ソフトウェア	8
◆ FTP アクセス制限ファイル設置方法.....	8
◆ FTP アクセス制限ファイルの無効化.....	10
■ CGI(Perl)/PHP の動作環境	10
◆ 利用上の注意事項.....	10
◆ 拡張子について.....	11
◆ バージョンと各種コマンドパス.....	12
■ アクセスカウンタの設置.....	13
◆ アクセスカウンタの機能.....	13
◆ アクセスカウンタ設置方法.....	13
◆ 日付/時刻表示の方法.....	14
◆ アクセスカウンタ利用上の注意.....	15
■ データベース.....	16
◆ MySQL と phpMyAdmin	16
◆ ご利用上の注意事項.....	17
◆ データベース上のデータについて	18
✦ phpMyAdmin 経由によるデータベースのバックアップ方法	18
✦ phpMyAdmin 経由によるバックアップデータのインポート	20

■ サーバの仕様

◆ サーバ OS について

Web サービス用サーバに採用している OS は Linux ベースの Turbo Linux Appliance Server3.0 となります。Web アプリケーションは Apache2.2.x 系です。

◆ Web アクセス方法

⊕ お客様の Web コンテンツの URL について

Web ブラウザからお客様の Web コンテンツへアクセスする際には、下記の URL となります。

[<http://www.お客様ご利用ドメイン名/>]

⊕ 共用 SSL サービス

Web サービスでは、共用 SSL サービスを標準で利用することが可能です。共用 SSL サービスをご利用頂くことにより、共用ドメイン名を使い、SSL 暗号化通信をご利用頂くことが可能です。共用 SSL サービスをご利用の場合は Web サーバにコンテンツデータを設置して下さい。共有 SSL サービスを適用した Web コンテンツにアクセスするには、以下の URL を入力します。

<https://web5.sec4u.jp/お客様ご利用ドメイン名/>

[<https://>] で接続することにより、Web サーバとクライアント(アクセスされた訪問者)間の通信を暗号化します。

個人情報を入力するお問い合わせフォームや、重要なパスワードを使い、認証するページなどに対して、ご活用下さい。

共用 SSL をご利用の際には、リンク先や Form タグの Action 先を [<https://web5.sec4u.jp/お客様ドメイン名/ファイル名/>] のように記述して頂く必要があります。

アクセス対象の CGI/PHP において、[www.お客様ご利用ドメイン名/] と指定している設定が存在する場合、共用 SSL 用 URL では動作にエラーが発生することがあります。

共有 SSL を用いた暗号化通信は、暗号化のみを目的としており、企業実在証明やサイト実在証明は含まれておりません。また、セキュアサイトシール、スマートシールといった SSL 対応を明示するシールのご利用を希望するお客様は、独自 SSL サービスをお申し込みください。

◆ ファイル名の指定がないアクセス

URL が [/] で終わるアクセスのようにファイル名の指定がない場合、自動的に [index.html] を参照します。[index.html] が存在しない場合、以下のような順序でファイルを参照し、いずれも存在しなかった場合には 404 File Not Found エラーが発生します。

Directly Index	
優先順位	参照ファイル名
1	http://www.お客様ご利用ドメイン名/index.html https://web5.sec4u.jp/お客様ドメイン名/index.html
2	http://www.お客様ご利用ドメイン名/index.htm https://web5.sec4u.jp/お客様ドメイン名/index.htm
3	http://www.お客様ご利用ドメイン名/index.shtml https://web5.sec4u.jp/お客様ドメイン名/index.shtml
4	http://www.お客様ご利用ドメイン名/home.html https://web5.sec4u.jp/お客様ドメイン名/home.html
5	http://www.お客様ご利用ドメイン名/home.shtml https://web5.sec4u.jp/お客様ドメイン名/home.shtml
6	http://www.お客様ご利用ドメイン名/default.html https://web5.sec4u.jp/お客様ドメイン名/default.html
--	上記いずれのファイルも存在しない場合、404 File Not Found エラー

サーバは、大文字/小文字を区別しており、異なる文字列と認識します。例えば、[INDEX.HTML] や [Index.Html] は、[index.html] と同等ではありませんので、ご注意ください。

◆ サーバエラーの種類

アクセスしたディレクトリ/ファイルが存在しない、アクセス禁止設定になっている場合など、サーバはエラーを発生します。

サーバエラーの種類		
エラーコード	内容	対処方法
403 Forbidden	アクセスを禁止する状態(実行権限)に設定されています	実行権限を[644]にするなどの変更をして下さい
404 Not Found	アクセスしたファイルが見つかりません	アクセス先ファイル名の確認、またはアップロードして下さい
500 Internal Server Error	CGI のエラーが発生しています	実行権限の確認、CGI スクリプトの確認を実施して下さい

エラーが発生した場合には、発生しているエラー内容をご参照の上、適切な対応を行って頂く必要があります。これらのエラーは、ご利用頂いているサーバ側での障害ではありません。

◆ 利用可能なディスク容量

Web サイトコンテンツデータは、利用可能ディスク容量以下である必要があります。プレミアムプランの場合、利用可能ディスク容量は 10GB となります。

利用可能ディスク容量(標準)	
ホスティングプラン	ディスク容量
プレミアム	10GB

利用可能ディスク容量を超過すると、新規ファイルをアップロード出来ない、CGI/PHP 経由で行われるファイル操作に失敗し、該当ファイルがゼロクリアされるなどの予期せぬ不具合が発生致します。現在のサーバ上に存在するデータ量を確認したい場合には、恐れ入りますが弊社までお問い合わせ下さい。

FTP ソフトによってはサーバ上に存在するファイルデータを計算出来る仕組みを持っています。この場合、計算内容や仕様によって、FTP ソフトの結果とサーバ側の実使用ディスク容量は異なることが多々あります。一般的に、FTP ソフトの計算結果の、1.2~1.5 倍程度の容量が、サーバ側の実使用ディスク容量となります。

■ FTP サービスの仕様

◆ FTP ログイン情報

サーバに HTML ファイルや画像ファイルをアップロードするためには、FTP クライアントソフト(以下、FTP ソフト)を使い、サーバにログインする必要があります。FTP ログインに必要な情報は、

【FTP ホスト名】(www.お客様ドメイン名)
【FTP ログイン名】
【FTP ログインユーザのパスワード】

となります。ご契約時の書類に上記情報が記載されておりますのでご確認下さい。外部業者の方にホームページ作成を依頼される際など、必要に応じて上記情報をお伝え頂くこととなりますが、ログイン情報の管理は厳重に行って下さい。

公開するファイルは、必ず[/web]にアップロードして下さい(ディレクトリ構成図をご参照下さい)。FTP ログイン後、ディレクトリを3階層上って頂いた[/]にある[web]ディレクトリとなります。

FTP では、アップロードの他に、データのダウンロードも可能です。サーバ上に存在するデータは、定期的にバックアップを必ず行って下さい。

FTP ソフトによっては、FTP ログイン時に指定されたディレクトリへ移動する機能を持っています。FTP ソフトによって機能の名称が異なりますが、ホストの初期フォルダ、ホスト開始フォルダ、保存ディレクトリなどと呼ばれています。この機能がある場合には、

`../../web`

と指定頂くことで、FTP ログイン時、自動的に[/web]に移動することが可能です。この機能については、お手持ちの FTP ソフトマニュアルをご参照下さい。

◆ ディレクトリ構成

ディレクトリとは、ファイルを分類・整理するための保管場所です。Microsoft Windows や、Apple Mac OS では、同様の概念をフォルダと呼びます。

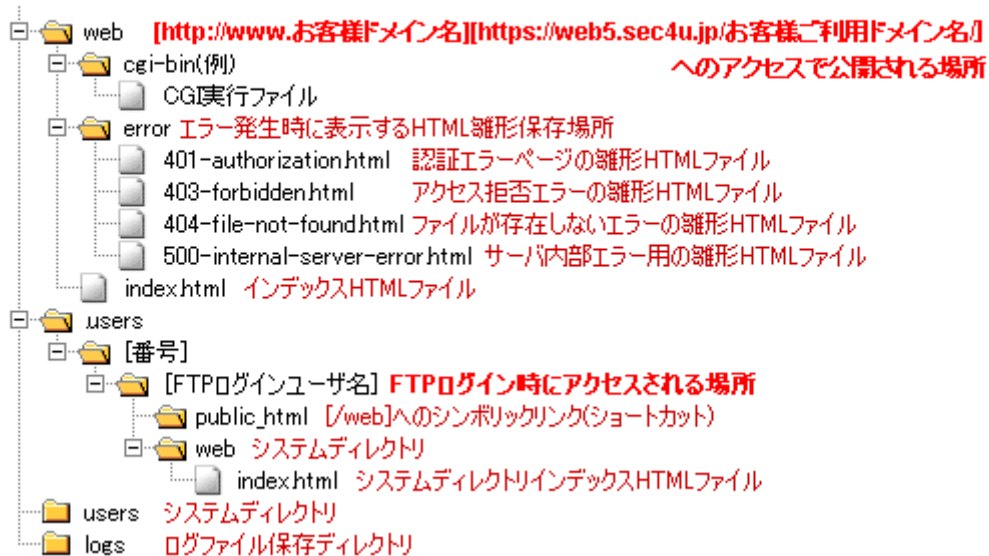
サーバ内部のディレクトリ構成は下図のようになっております。これらは、FTP ソフトウェアでサーバにログインし、Web コンテンツファイルなどをアップロードする際や、管理運用に必要な情報となります。

サーバには初期状態で様々なディレクトリ/ファイルが存在し、役割があります。初期状態で存在するディレクトリは変更しないようご注意ください。

・ web サーバ ディレクトリ構成図

サーバルートパス : /home/sites/www.お客様ドメイン名/

FTPルートパス : /



◆ Web アクセスログ

[/log]ディレクトリ配下には、[web.log]というファイル名にて、Web アクセスログが保管されております。必要に応じてFTP経由でダウンロード下さい。Web アクセスログファイルは、50MB~最大 200MB まで保存され、gzip 形式(web.log.[世代数].gz)にて過去 4 世代分が存在しております。

アクセスログに関しましては弊社サポート対象外となります。また、弊社都合により削除させて頂く場合もありますので、予めご了承下さい。

◆ FTP ソフトウェア

FTP ソフトとしては、FFFTP、NextFTP、FTP Explorer、Fetch などの他、IBM ホームページビルダー、Adobe Dreamweaver などの Web サイト構築ソフトにも FTP 機能があります。

弊社では、FTP ソフトをご提供しておりませんので、別途ご用意下さい。FTP ソフトの使用方法につきましては、開発/販売元へお問い合わせ下さい。

◆ FTP アクセス制限ファイル設置方法

対象のディレクトリに “.ftppaccess” ファイルを設置することで、FTP アクセス制限が可能です。“.ftppaccess” の設定については下記設定手順をご参考にして下さい。

FTP アクセス制限については弊社サポート対象外となりますのでご了承下さい。

※ 注意事項

- FTP アクセス制限はウェブサイトの運用に影響を及ぼす場合がございます。
- [.ftppaccess]は、設置したディレクトリ配下全てに有効となります。
仮に [/] (ルートディレクトリ) 内に設置した場合、ユーザ用のディレクトリも影響を受けます。
- 許可する IP アドレス/ホスト名を誤って設置すると FTP での操作 (リスト表示、PUT、GET) が出来なくなる可能性があります。

【設定手順】

1. FTP アクセスを許可する IP アドレスやホスト名を確認します。
2. メモ帳などのテキストエディタを起動し、以下のフォーマットに従い、内容を記述して下さい。
Allow from { 接続元情報 }に許可する IP アドレスやホスト名などを記述していきます。
Allow from に続いて記述された接続元のみ FTP アクセスが許可されます。

【.ftppaccess フォーマット】

```
<Limit ALL>  
    Order Allow, Deny  
    Allow from { 接続元情報 }  
    Deny from all  
</Limit>
```

【Allow from { 接続元情報 } の記述 (例)】

```
Allow from グローバル IP アドレス
```

- ・グローバル IP アドレスから FTP アクセスを許可します。
接続元が固定グローバル IP アドレスの場合に有効です。

```
Allow from .jp
```

- ・[.jp]で終わるホスト名に対して、FTP アクセスを許可します。
日本国内の多くのプロバイダが許可されます。
一部の国内プロバイダは[.net]を使うこともありますのでご注意ください。

```
Allow from .tokyo.isp.example.jp
```

- ・[.tokyo.isp.example.jp]で終わるホスト名に対して、FTP アクセスを許可します。
同一プロバイダで特定の地域からのみ許可したい場合に有効です。

3. ファイル名を[ftppaccess.txt]として保存します。
4. 作成した[ftppaccess.txt]ファイルを FTP ソフトでサーバにアップロードします。
アップロード先は、制限したいディレクトリ配下とします。
5. アップロード先の[ftppaccess.txt]について[.ftppaccess]にファイル名を変更します。
以上で FTP アクセス制限は完了です。
FTP アクセス制限について動作確認を必ず行なうようにして下さい。

◆ FTP アクセス制限ファイルの無効化

“.ftpassess” 設置後、FTP の操作が出来なくなった場合、許可する IP アドレスもしくはホスト名を誤って記述した可能性があります。

この場合、お客様側から[.ftpassess]ファイルを修正することはできません。

弊社担当者が[.ftpassess]のファイル名を変更し、制限を無効化致しますので、

以下のメールフォーマットをご記入の上、弊社までご依頼下さい。

また、緊急対応をご希望の場合は、サービスセンタまで電話連絡も合わせてお願いします。

宛先：tech@omakase.jp

件名：「.ftpassess」ファイル名変更依頼

メール本文：-----ここから-----

顧客(お客様)番号：###ご記入下さい###

ご契約ドメイン名：###ご記入下さい###

連絡先電話番号：###ご記入下さい###

「.ftpassess」を設置したサーバ名：###ご記入下さい###

「.ftpassess」を設置したディレクトリ：###ご記入下さい###

上記ディレクトリ設置「.ftpassess」のファイル名変更を依頼します。

-----ここまで-----

■ CGI(Perl)/PHP の動作環境

◆ 利用上の注意事項

プレミアムプランでは、お客様が作成した CGI (Perl) /PHP を自由にご利用頂くことが可能です。CGI(Perl)/PHP の設置(実行権限の変更が適用されるディレクトリ)に制限はありません。また、同様に実行権限の変更も可能です。

お客様が設置された CGI(Perl)/PHP スクリプトの動作、内容につきまして、弊社ではサポート対象外となっております。動作しない場合には、該当 CGI(Perl)/PHP スクリプトの制作元/開発元へお問い合わせ下さい。

お客様が設置された CGI(Perl)/PHP スクリプトが、連続起動などの理由により、サーバに対して高い負荷を与えている場合、お客様への事前連絡なしに停止させて頂く場合がありますので、予めご了承下さい。

セキュリティホールが存在する CGI(Perl)/PHP スクリプトを設置された場合や、シェルアクセスを仮想的に行う CGI(Perl)/PHP スクリプトについては、弊社側で確認次第、お客様の承諾なく弊社側で削除致します。予めご了承下さい。

◆ 拡張子について

登録されている拡張子は、以下の通りとなります。

特に SSI の拡張子は[html]では動作致しませんのでご注意ください。

拡張子	
拡張子	説明
.cgi .pl	CGI(Perl)
.php	PHP
.shtml	SSI

◆ バージョンと各種コマンドパス

CGI(Perl)/PHP スクリプトを実行する際に、Perl や Postfix 等サーバ側で用意したプログラムをご利用頂くことが可能です。主なプログラムのパスは下記のようになっております。

Web サーバに導入済みプログラムの仕様

バージョンとサーバパス		
コマンド/ソフトウェア	サーバパス	バージョン
Perl	/usr/bin/perl	5.8.8
Sendmail	/usr/sbin/sendmail	※postfix の互換コマンドにて実行されます。なお、postfix のバージョンは 2.4.5 です。
PHP	/usr/bin/php	5.2.4
NKF	/usr/bin/nkf	2.0.7
htpasswd	/usr/bin/htpasswd	
uuencode	/usr/bin/uuencode	
uudecode	/usr/bin/uudecode	
MySQL	/usr/bin/mysql	5.0.45

※2010年11月現在の情報です。

上記以外のプログラムパスが必要な場合、または導入の有無が不明な場合には、弊社までお問い合わせ下さい。

CGI(Perl)は CGI wrapper を通してユーザ権限で実行されます。

サーバのセキュリティ上の理由により、各プログラムは予告無くバージョンアップを実施させて頂く場合があります。

■ アクセスカウンタの設置

◆ アクセスカウンタの機能

サイトを訪問された方のアクセス数を計るためのアクセスカウンタを標準で提供しております。アクセスカウンタの機能として、この他に、時刻表示、日時表示が可能です。

◆ アクセスカウンタ設置方法

カウンタを表示させたいページ(HTML ファイル)内に、特定のフォーマットに沿った IMG タグを記述します。

```


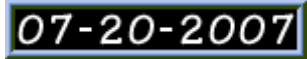


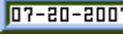
```

※表示の都合上、途中で改行しておりますが、改行する必要はありません、

太文字は、個別に設定を行って頂く必要がある部分となります。各設定項目部分については下記の通りです。

アクセスカウンタ設定	
設定項目	内容
df (ドメイン名)	お客様のご利用頂いているドメイン名をご記入下さい。省略することは出来ません。
md (カウンタ桁数)	カウンタの桁数を、5桁～10桁まで指定が可能です。
dd (デザインスタイル)	A～Eの5種類があります。省略するとデザインAになります。
st (カウント初期値)	カウンタの初期値を指定下さい。省略すると1になります。 この初期値は初回ご利用時のみ有効となります。

アクセスカウンタのデザインスタイルは、A から E の 5 種類用意しております。お客様サイトデザインに沿ってご利用下さい。

アクセスカウンタデザインスタイル			
デザインスタイル	カウンタ	時刻	日時
dd=A			
dd=B			
dd=C			
dd=D			
dd=E			

例えば、[http://www.example.co.jp/]にて Web サービスをご利用頂いている場合、カウンタ桁数は、7 桁、デザインは A、カウント初期値として 1024 とする際の記述方法は下記のようになります。

```

```

※表示の都合上、途中で改行しておりますが、改行する必要はありません、

サーバでは大文字/小文字を異なる文字として認識します。[count.cgi]ではなく、C を大文字にして [Count.cgi] と記述して下さい。

◆ 日付/時刻表示の方法

アクセスカウンタにて日付、時刻を表示させることが可能です。なお、どちらもリアルタイムに時間が変わっていく機能はなく、アクセスした日時となります。デザインスタイル以外、個別設定はありません。

```
時刻表示 : 
日付表示 : 
```

◆ アクセスカウンタ利用上の注意

アクセスカウンタは、Web サービスに付属する標準サービスとなります。弊社サービス/サーバ以外ではご利用頂けません。また不具合などについては免責とさせて頂いております。ご了承下さい。

アクセスカウンタ、時刻表示、日時表示は1契約につき1つご利用頂くことが出来ます。複数ページにアクセスカウンタを表示させたい場合は、お客様独自のアクセスカウンタを設置して下さい。また、アクセス解析として利用される場合には、より高度な利用状況が把握出来るログ分析サービスをご利用ください。

アクセスカウンタは、直前のアクセス元 IP アドレスを記録し、多重カウントを防ぐ仕様となります。このため、連続してリロードしてもカウントアップされません。

アクセスカウンタは **referrer** (アクセス参照元情報)を確認しております。訪問された方のセキュリティ設定、WWW ブラウザの設定によっては、アクセスカウンタが正常に動作、表示致しません。この場合、カウンタ数値は[88888888]のようになります。

■ データベース

◆ MySQL と phpMyAdmin

本サービスの Web サーバには、PHP+MySQL による動的なコンテンツの実行環境が導入されています。データベースは、Web サーバに初期状態で 6 つ作成されています。

MySQL を WWW ブラウザから MySQL のテーブル操作/メンテナンスを行って頂くために、phpMyAdmin をご用意しております。phpMyAdmin は下記 URL にてアクセス可能です。

[<https://web5.sec4u.jp/phpMyAdmin/>]

ユーザ ID/パスワードを求めるダイアログが表示されますので、ログインするデータベースのユーザ ID/パスワードを入力してログインして下さい。なお、MySQL /phpMyAdmin にログインするための情報は、サーバに FTP ログインするための情報が元となります。

FTP ログイン名に”-“が含まれる場合には、”-“を削除して頂く必要があります。例えば、FTP ログインユーザ名が[ab-cdftp]の場合、”-“がなくなり、データベース上では[abcdftp]となります。

MySQL ログイン情報	
項目名	情報
データベース名	(FTP ログインユーザ名)01
接続先	localhost
データベースユーザ名	(FTP ログインユーザ名)
データベースパスワード	(FTP ログインユーザ名のパスワードと同じ)

phpMyAdmin ログイン情報	
項目名	情報
phpMyAdmin ログイン ID	(FTP ログインユーザ名)
phpMyAdmin ログインパスワード	(FTP ログインユーザ名のパスワードと同じ)

例として、ご利用頂いている CGI サーバへの FTP ログインユーザ名が[abcdftp]であった場合には、MySQL にログインするための情報は下記のようになります。

例：MySQL ログイン情報	
項目名	情報
データベース名	abcdftp01
接続先	localhost
データベースユーザ名	abcdftp
データベースパスワード	FTP ユーザ[abcdftp]のパスワード

例：phpMyAdmin ログイン情報	
項目名	情報
phpMyAdmin ログイン ID	abcdftp
phpMyAdmin ログインパスワード	FTP ユーザ[abcdftp]のパスワード

◆ ご利用上の注意事項

外部ネットワークからの呼び出しには対応しておらず、[localhost]からの接続のみとなります。また、シェルアクセスは無効となっておりますので、phpMyAdmin 経由で MySQL をご利用下さい。

MySQL、並びに、phpMyAdmin のご利用方法につきましては、弊社サポート対象外とさせて頂いております。仕様に関わるお問い合わせはお気軽にお申し付け下さい。

◆ データベース上のデータについて

MySQL のデータは、FTP 経由では操作が不可能な場所に保存されております。そのため、MySQL 上のデータは、FTP 経由ではなく phpMyAdmin からバックアップして頂く必要があります。

下記の phpMyAdmin 経由からのバックアップ方法をご参照の上、定期的に行って下さいませよう
よろしくお願い致します。

✦ phpMyAdmin 経由によるデータベースのバックアップ方法



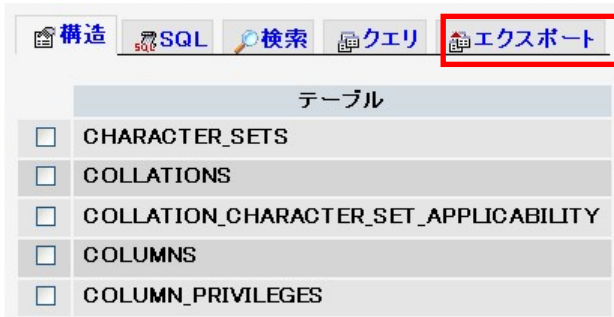
ブラウザから <http://web5.sec4u.jp/phpMyAdmin/> へアクセスを行います。認証画面では、phpMyAdmin のユーザ ID/パスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックしてログインして下さい。



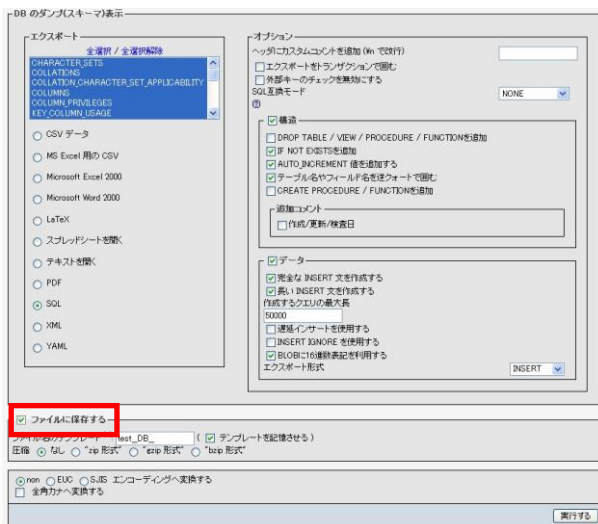
phpMyAdmin ログイン後、左側メニューより、バックアップするデータベースを選択して下さい。

データベースのバックアップ作業は定期的に行って下さい。

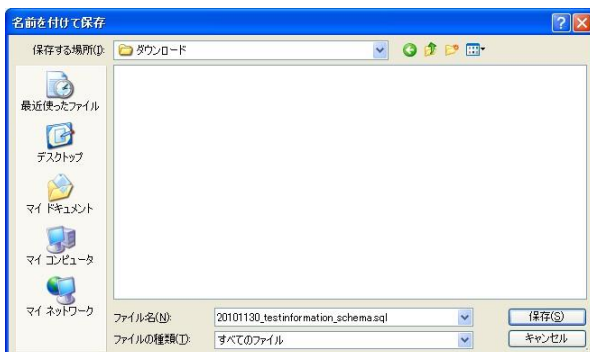
右側タブメニューの[エクスポート]をクリックして、エクスポート画面に移動します。



「ファイルに保存する」のチェックボックスが有効であることを確認してください。オプションを指定して[実行する]ボタンをクリックします。



データベースの保管先を指定し保存します。以上でデータベースのエクスポートは完了です。



✦ phpMyAdmin 経由によるバックアップデータのインポート



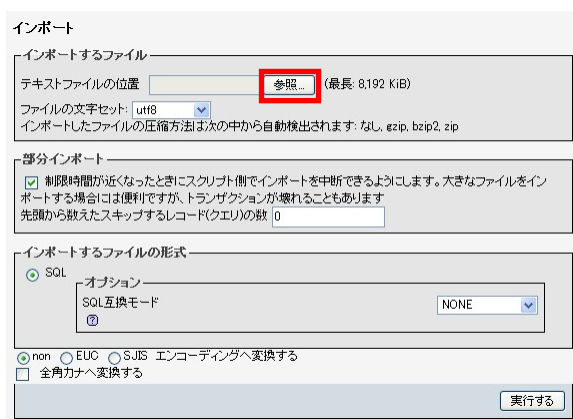
ブラウザから <http://web5.sec4u.jp/phpMyAdmin/> へアクセスを行います。認証画面では、phpMyAdmin のユーザ ID/パスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックしてログインして下さい。



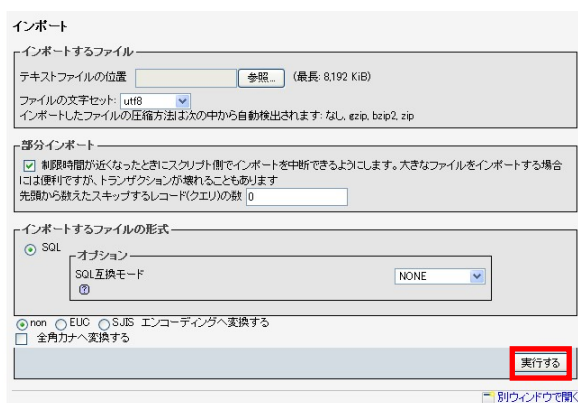
phpMyAdmin ログイン後、左側メニューより、インポートするデータベースを選択します。



右側タブメニューにある[インポート]をクリックします。



インポートするファイル項目の中にある[参照]ボタンをクリックし、インポートしたいデータベースファイル（拡張子は sql）を選択します。



インポートするデータベースファイルの指定後、「実行する」ボタンをクリックします。バックアップファイルより SQL クエリが読み込まれ、バックアップした状態に復元します。

i インポートは正常終了しました。30 個のクエリを実行しました

インポート

インポートするファイル

テキストファイルの位置 参照... (最長: 8,192 KiB)

ファイルの文字セット: utf8
インポートしたファイルの圧縮方法: なし, gzip, bzip2, zip

部分インポート

制限時間が近くなったときにスクリプト側でインポートを中断できるようにします。大きなファイルをインポートする場合には便利ですが、トランザクションが壊れることもあります
先頭から数えたスキップするレコード(クエリ)の数:

インポートするファイルの形式

SQL

オプション

SQL互換モード: NONE

non EUC SJIS エンコーディングへ変換する
 全角カナへ変換する

実行する

バックアップファイルのインポートが完了すると、インポートが正常終了した旨を示すメッセージが表示されます。

以上の作業でインポート作業は完了です。

インポート作業は上書きではなく、追記となります。このため、以前のデータが残ったままインポートすることは出来ません。このような場合、既存データを全て削除した上で実行して頂く必要があります。

削除されたデータはサーバ上から元に戻すことは出来ません。インポート作業は慎重に実行していただきますようお願い致します。

インポートした際のデータに文字化けが発生している場合、エクスポートおよびインポートを実施した時にそれぞれ指定した文字コードが異なっている可能性があります。エクスポートおよびインポート作業を行う際に文字コードが同じであることを確認してください。